

平成28年度 荒尾市の決算

市の財政の決算状況をご報告します。
 財政課 63-1289

一般会計 収支の状況

一般会計決算額は、歳入が212億4,748万5千円（対前年度比1.8%減）、歳出が206億5,024万7千円（対前年度比0.3%減）で、差し引き5億9,723万8千円の黒字になりました。そのうち3,451万9千円は、平成29年度に繰り越して行う事業の費用として必要なため、実質的な収支では、5億6,271万9千円の黒字となりました。

また、積立基金（市の貯金）に9億1,027万4千円積み立て、1,363万円取り崩しました。その結果、平成28年度末の積立基金の合計は63億3,613万円になりました（出納整理期間を含む）。

歳入の決算状況

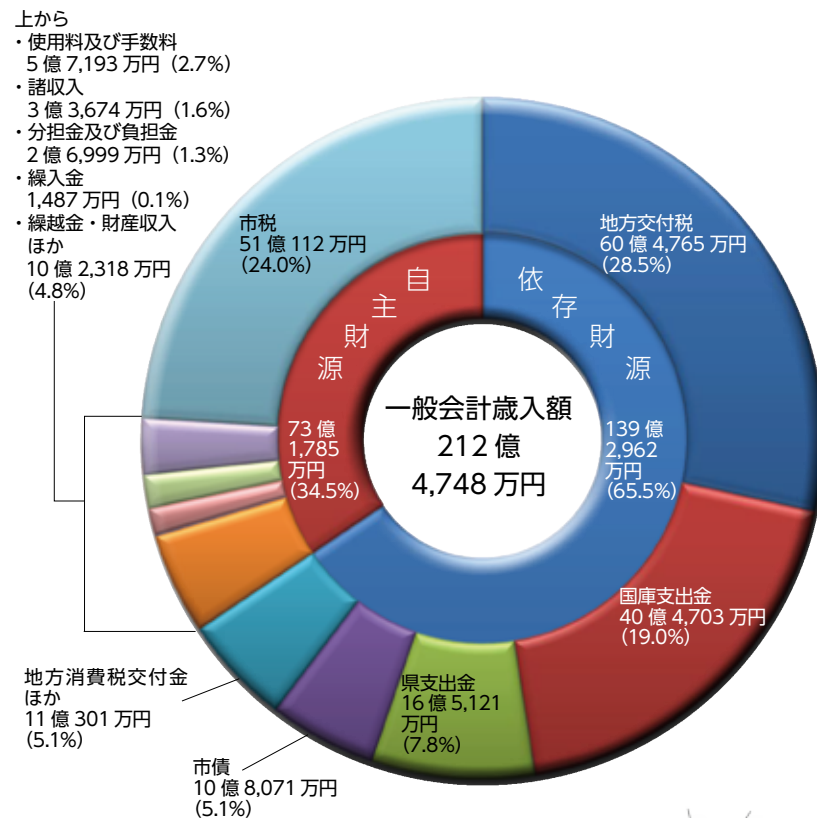
【歳入の決算状況】

歳入総額は、前年度と比べて3億8,314万2千円減少しています。

自主財源（市が自主的に収入できるお金）の合計は73億1,785万6千円で歳入の34.5%です。このうち市民税や固定資産税などの市税が51億112万1千円で歳入の24%を占めています。

一方、依存財源（国や県によって額が決められ、交付されたり割り当てられたりするお金）の合計は139億2,962万9千円で歳入の65.5%を占めています。このうち地方交付税が60億4,765万1千円で、歳入の28.5%です。

このように、本市の財政は自主財源よりも依存財源が占める割合が高いことから、地方交付税や国県補助金など、国や県の施策に大きな影響を受けます。そのため、行政活動の自主性と安定性に弱い面があるということも考慮した行政運営が必要になります。

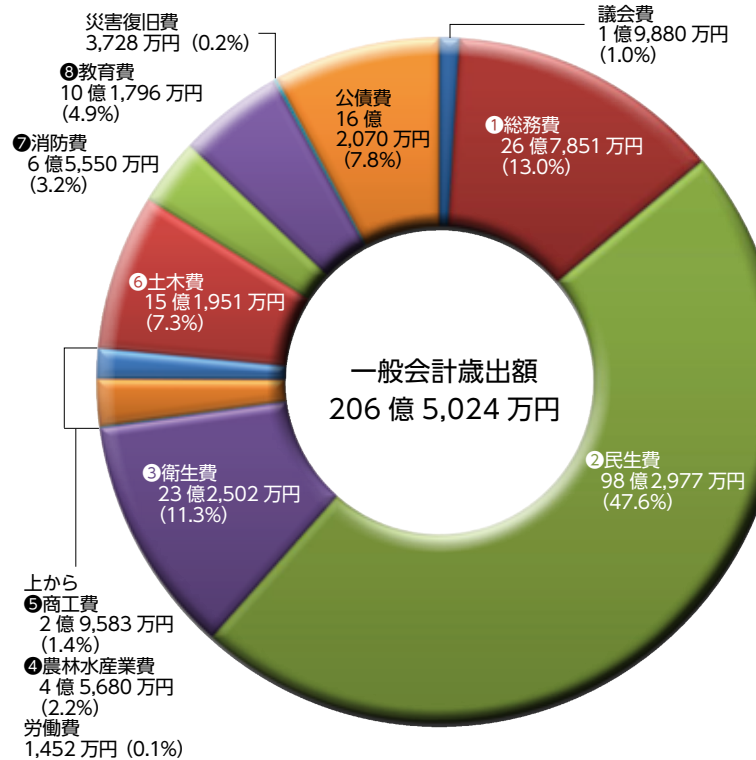


決算とは

4月～翌年3月を一区切りとして、市にどのくらいの収入があり、そのお金をどのように使ったのかをまとめた家計簿です。市では9月に開かれた市議会で詳しく審議された後、認定を受けました。

※グラフや表の金額は1万円未満を切り捨てて表記していますので、合計と合わない場合があります。また、割合は四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

歳出の決算状況



平成28年度は 主にこのような事業に使いました

歳出総額は、前年度と比べて6,863万4千円減少しています。

① 総務費	市役所での一般管理事務費	8億5,394万円
	基金への積立	9億961万円
	市税の賦課徴収などの税務事業費	2億5,562万円
	戸籍住民基本台帳事業費	1億3,515万円
	参議院議員選挙などの選挙経費	5,800万円
② 民生費	国民健康保険特別会計への繰出金	6億5,592万円
	介護保険特別会計への繰出金	7億7,645万円
	後期高齢者医療の経費	10億4,374万円
	老人ホームの経費	2億1,079万円
	障害者自立支援給付費	13億7,560万円
	子ども医療費や児童扶養手当の支給など子育て支援の経費	6億9,838万円
	保育園、認定子ども園の運営経費	17億1,026万円
	児童手当の支給経費	8億9,753万円
	生活保護の経費	15億9,477万円
③ 衛生費	感染症などの病気予防の経費	1億6,084万円
	母子保健の経費	4,252万円
	がん検診など健康増進の経費	4,405万円
	ごみの収集・処理費用	8億8,021万円
	し尿の収集・処理費用	2億7,197万円
	市民病院への支出金	5億696万円
	水道事業への支出金	1億8,024万円
④ 農林水産業費	農家育成や農業振興の経費	3,736万円
	農道や水路の整備などの推進経費	1億6,629万円
	林業振興の経費	8,714万円
	水産業振興の経費	5,466万円
⑤ 商工費	商工振興費用	8,384万円
	観光事業の経費	8,517万円
	企業の誘致促進経費	2,789万円
⑥ 土木費	道路の維持補修経費	1億2,602万円
	道路の新設改良費用	2億8,656万円
	下水道事業への支出金	3億7,836万円
	土地区画整理の経費	1億1,106万円
	市営住宅の建設、維持管理経費	3億4,141万円
⑦ 消防費	有明広域消防組合への負担金	5億3,693万円
	消防団活動などの支援や、消防施設などの整備経費	9,278万円
	防災や災害対策の経費	2,577万円
⑧ 教育費	教育委員会事務局の一般管理費	3億1,046万円
	小・中学校の施設改修、新築・増改築などの費用	1億7,888万円
	小学校10校の管理運営費用	1億4,588万円
	中学校3校の管理運営費用	8,388万円
	運動公園などの体育施設の管理運営費	5,632万円
	学校給食の経費	1億4,427万円
公債費	借入金の元金返済費用	14億6,450万円
	借入金の利子費用	1億5,620万円

決算のまとめ

平成28年度の決算は、一般会計と全ての特別会計（国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、南新地土地区画整理事業）で黒字となりました。また、企業会計においても資金不足比率は解消されており、荒尾市の財政はおおむね健全な状態といえます。

今後についても、老朽化した公共施設の建て替えや社会保障関連経費の増加が見込まれていることから、効率的、効果的で持続可能な財政運営を進めていく必要があります。